

■浅見綱齋 崎門三傑で、大義名分論を深化させた「靖言遺言」を著し、維新の志士らへ思想的感化を及ぼす。

あさみけいさい

承応事件・・・1652＝ 近江国高島郡太田村で、衰退した武家名門の儒医浅見俊盈の次男に生まれる。幼名重次郎。名は安正、

浅見家再興を夢見る父に、兄弟揃って将来を託されて育ち、

明暦の大火・1657＝ 5歳：

清帝国始・・・1661＝ 9歳：

酒井忠清大老1666＝14歳：

・・・・・・1670＝18歳：

藤十郎登場・1678＝26歳： 山崎闇齋に入門，厳しい指導を受けて，たちまち頭角を現す。先輩の佐藤直方，

越後騒動・・・1679＝27歳：

徳川綱吉將軍1680＝28歳： 続いて入門してきた*三宅尚齋とともに，“崎門の三傑”と称されるほどになるが，垂加神道を唱え始めた師闇齋に異議を申し立て，さらに，敬義内外説の解釈についても食い違ったため，直方とともに破門されてしまう。

好色一代男・1682＝30歳： 闇齋の死去後，後悔反省し，以後生涯，師と慕い続ける。京都の綾小路に私塾(錦陌堂)を開く。

師闇齋に劣らぬ峻烈な教育方針をとり，また仕官の道を選ばず，終生貧乏暮らしとなる。

堀田正俊暗殺1684＝32歳： 困難に準じた人物の評伝集「靖献遺言」の編集に着手，

・・・・・・1686＝34歳： 父が死去，

生類憐令始・1687＝35歳： *「靖献遺言」を完成し出版。たちまちベストセラーとなり，以後多くの人に読み継がれる書となる。

日本永代蔵・1688＝36歳： 自ら「靖献遺言」の講義を開始，名声が広まって続々と入門する弟子らを相手に，以後没するまで続ける。

・・・・・・1689＝37歳： 京都東山の月を眺めて歓談する(東山会)を立ち上げるなど，柔軟なところも見せている。

また，師闇齋が大義や忠について提起し，崎門学派で盛んに論じられてきた「拘幽操」について，その本質に言及した「拘幽操師説」を発表し，

世間胸算用・1692＝40歳： *大義を尽くす忠についての宋代の学者の考えを集めた「拘幽操附録」も刊行。

生類憐令頂点1695＝43歳：

・・・・・・1697＝45歳：

・・・・・・1706＝54歳：

徳川綱吉没・1709＝57歳：

冥途の飛脚・1711＝59歳： 没した。

没後，弟子らが記録した「靖献遺言講義」が出版された。